

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 9 月 3 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3890101862
事業所名	グループホームすみれの和
(ユニット名)	はれひめ
記入者(管理者)	
氏名	渡部 大介
自己評価作成日	令和 3年 8月 1日

<p>【事業所理念】</p> <p>私たちは、利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>(初回調査)</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>県道から少し入った住宅街にあるオール電化の2階建ての新しい事業所は、開設して2年目を迎える。事業所の広々としたリビングから気軽にウッドデッキに出ることができ、共用部分は全体的にシンプルな雰囲気でも優しい色合いでまとめられている。法人として、松山市内で複数のグループホーム等を展開しており、人事異動で同法人の他の事業所で勤務経験のある職員も多く在籍している。また、日々事業所では、利用者が楽しみや生きがいを持ちながら生活を送ることができるように、野菜づくりなどの好きなことを継続してもらったり、利用者が得意な家事などをあえて職員が頼りにしたりするなど、利用者の役割や出番をつくりながら、意欲を引き出せるよう努めている。さらに、現在のコロナ禍において、外出や面会など様々な制限がある中でも、SNSのLINEアプリを活用したりリモート面会を取り入れたり、家族に利用者の様子の動画を配信したりするなど、少しでも事業所での様子を伝える工夫をしている。加えて、事業所の駐車場に食品の移動販売車等と呼んで、地域住民と一緒に利用して楽しんでもらうなど、コロナ禍でも様々なアイデアを出しながら事業所と利用者が地域で孤立することがないよう取り組んでいる。</p>
--	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>△</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>△</p> <p>○</p>	◎	◎	◎	<p>日々の会話や関わりの中で、職員は利用者から思いや希望を聞くほか、表情等から汲み取るよう心がけている。また、訪問調査日には、少し離れた場所で外の風景を眺めながら職員が利用者に寄り添い、思いを言い表しやすい落ち着いた雰囲気の中で会話をしている様子が見られた。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	◎	◎	◎	<p>自宅から入居する場合には、事前にホーム長等が自宅を訪問し、利用者や家族からこれまでの暮らし方や生活環境などの聞き取りをすることもあつた。また、以前利用していた他の介護サービス事業所から情報を聞くこともあり、把握して職員間で情報を共有している。さらに、実際に生活をしていく上で新たに知り得る情報も多く、情報共有ができるように口頭での伝達や記録に残すほか、アセスメントシートの情報も必要に応じて更新している。</p>
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	◎	◎	◎	<p>入居時等に把握した利用者の生活歴などは、アセスメントシートに詳しく記載されているが、現在事業所では、職員がより利用者一人ひとりの人物像を知ること、課題分析やサービスにも活用できるよう、さらに生活歴や性格、こだわりなどの情報をまとめる作業に取り組んでいる。また、利用者の視点で、何が必要なかを職員間で検討している。</p>

愛媛県グループホームすみれの和

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の意向を最優先に考えている。				介護計画は、計画作成担当者が各利用者の担当職員と話し合うほか、利用者や家族の意見、他の職員の気づきなどを取り入れて作成している。また、担当者会議の中で、家族の意見を聞くほか、定期的に職員は介護計画の内容の説明や確認を行っている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	家族や、その他関係者との話し合いは不十分。	○		△	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	対応可能な範囲内では努力している。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアプランの内容は共有している。				職員は、介護計画のサービス内容の実施の有無を毎日記号で記録し、実施状況を確認することができるようになっている。各利用者の経過記録のファイルの表に、サービス内容を貼ることができているものの、どの課題に応じたサービス内容なのかを職員が認識できるように課題や目標も合わせて記載や貼り付けをするなど、職員間で検討することを期待したい。また、経過記録には利用者の発したありのままの言葉が残され、どの職員が見ても分かりやすい状況となっている。さらに、職員の気づきやアイデアは口頭での申し送りに留まっているため、新入職員等があとで確認しても分かるように、記録に残すような工夫を期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	定期的にモニタリングしている。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録にて行っている。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	口頭での申し送りは行っているが、記録はしていない。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じた計画の見直し・更新を行っている。				事業所では、利用者毎の担当職員を中心に毎月モニタリングを実施しているほか、介護計画の短期目標等の期間に応じて、利用者の現状の確認をしている。また、利用者の状態に変化が見られた場合は、随時関係者で話し合い、現状に合った介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月モニタリング行っている。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化があれば、その都度計画を作り直している。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的に会議を開いている。				日々の申し送りのほか、定期的に毎月各ユニットでミーティングを実施し、利用者の課題や状態などの話し合いをしている。緊急を要する場合には、随時職員間で検討をしている。また、会議等に参加できなかった職員には、ホーム長等が後日口頭で説明するほか、会議記録などに目を通してもらい、意見を聞いている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	並行して業務も行いながらの会議なので難しいところもある。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	可能な限り開催日時工夫しているが、休日の職員の参加率は低い。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録や、場合によっては口頭でも伝達している。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	口頭での伝達に加え、申し送りノート活用している。				日々の申し送りのほか、申し送りノートを活用して、職員全員が情報を共有できるようにしている。また、事業所では申し送りノートや会議録の確認後に、職員はサインを残し、確認漏れがないよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	口頭での伝達に加え、申し送りノート活用している。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	日によって変わる状況に適切に対処しきれない部分がある。	/	/	/	日常の様々な場面で、職員は利用者を選んでもらうということを意識して、自己決定する機会を作っている。また、利用者が楽しみをもって過ごせるように、趣味や得意なことを継続してもらえるよう支援している。さらに、利用者が詠んだ俳句を、職員が家族にSNSのLINEを活用して送付するなど、好きなことに意欲を持ち続けられるよう取り組んでいる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自身で決定できることは手を出さずきないようにしている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人の思いを大切にしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	タイムスケジュール等、職員都合になっている部分もある。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	そのように常に心掛けている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	観察に努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	個人を尊重している。	/	○	◎	事業所では、最初に利用者が自分より年上であることを職員に再認識してもらい、ミーティング時などを活用して利用者の人権や尊厳に触れるようにしている。また、職員の言葉づかいや言動が気になる場面には、ホーム長やユニットリーダーから該当職員に注意するようにしている。時には、利用者が居室に不在の場合に、職員がそのまま入室してしまうことが見られるため、居室を利用者のプライバシーのある空間と認識して、リビングなどにいる場合にも必ず利用者に声をかけて確認の上で入室するなど、職員間で話し合い統一した対応ができることを期待したい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	利用者の尊厳を守ることを意識している。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	利用者の尊厳を守ることを意識している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	プライバシーに配慮している。	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	内部研修を行っている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者の得意を活かせるようにしている。	/	/	/	職員は利用者一人ひとりの性格や状況を把握し、利用者同士が支え合い、関わりを持ちながら生活が送れるよう努めている。また、各ユニットには男性の利用者は少なく、職員は孤立感を抱かせないように、細目に声かけをしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	円滑な集団生活の為、配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	円滑な集団生活の為、配慮している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	円滑な集団生活の為、配慮している。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみの和

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	詳細は家族も知らないこともあり、不十分な点ある。					
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	詳細は家族も知らないこともあり、不十分な点ある。					
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。					
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。					
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。	×	△	△	現在のコロナ禍において、事業所では外出制限が設けられているものの、少人数でドライブに出かけたり、事業所周辺を散歩したり、ウッドデッキでバーベキューをするなど、なるべく利用者に外の空気に触れて気分転換ができるよう工夫している。今後もホーム長等は、感染対策を取りながら貸し切りの場所などに出かけられるよう思案している。また、重度の利用者の状態にも配慮しながら、リビングからウッドデッキに出て外気浴をすることができている。さらに、外出制限が設けられているものの、事業所として外出等に工夫している現状を家族に伝え、安心や信頼関係につなげていくことを期待したい。	
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。					
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	ウッドデッキ活用し、外気に触れる機会作っている。					○
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。					
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症に関する内部研修実施している。				事業所では利用者の自立支援を念頭に置き、日常生活動作の中で、利用者一人ひとりのできることやできそうなことを見極め、職員が手や口を出し過ぎないような支援を心がけている。	
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活動作によるリハビリ意識している。					
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	残存機能の維持・向上に努めている。	◎		◎		
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者の得意を活かせるようにしている。				野菜づくりが好きな利用者には、率先して家庭菜園での栽培の世話をしてもらっている。調理の際の切る作業などの下ごしらえや食器拭きなど、職員は利用者の得意なことに着目し、役割や出番を持ってもらいながら張り合いのある生活が送れるよう支援している。また、訪問調査日には、エプロンを着けて意欲的に調理の下ごしらえなどをする利用者の姿を見ることができた。	
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者の得意を活かせるようにしている。	○	◎	◎		
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。					

愛媛県グループホームすみれの和

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	利用者の好みの把握に努めている。				食事の時には、食べこぼしのある利用者もなるべく食事前エプロンを使用せず、職員がタオルでさりげなく汚れを拭きとるなどの対応をしている。また、化粧の習慣がある利用者もあり、おしゃれ心を尊重して継続してもらえよう支援している。さらに、寝たきりの利用者にも好みの服装に配慮し、職員は更衣の際などに利用者自身の負担がかからず、着こごちの良い衣類を選択するよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	利用者の好みの把握に努めている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人の意向を最優先に考えている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	TPOに合わせた服装となるよう考えている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりけなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	利用者の尊厳を守ることを意識している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	コロナ禍のため、困難。出入り業者は固定し、訪問にて理容・美容の支援行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人にとって馴染みのものを大切にしている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事が楽しみになるよう、楽しめるよう配慮している。				利用者のリクエストを取り入れながら、職員が献立を作成している。食材はネットスーパー等を活用し、職員が発注している。調理の下ごしらえの準備などできることは積極的に利用者にも手伝ってもらい、ホットプレート活用したメニューの時は利用者がメインの食材で腕をふるう場面もある。おせちや芋炊きなど、季節を感じたり懐かしい献立を取り入れ、利用者に食事が楽しみになるような工夫をしている。食器類は利用者の使い慣れた物や状態にあった物を使用している。利用者の食事形態に応じて、ミキサー食やざきみ食などの対応をしている。また、職員は利用者の食事中に介助や見守りに専念し、同じテーブルを囲んで食事を摂ることはないが、同じメニューを食べている職員もいる。疾患のため居室で食事介助をしている利用者もあり、職員は献立の説明をするなど、食事に興味を持ってもらうような支援をしている。さらに、献立のバランスや味付け、固さなど、利用者の声を随時聞いて職員間で話し合い、献立作成や調理の参考にしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	献立作りは職員が行い、買い物についてはネットスーパー活用している。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	出来ること、得意なことは利用者にも積極的にやってもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	好きなもの、嫌いなもの、アレルギーの有無について情報共有している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	好き嫌いや、季節感に配慮している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりや器の工夫等)	○	本人の嚥下機能や主治医の意見を取り入れながら機能に応じた食事形態で提供				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△	家族に準備して頂いているが、機能にあてない場合は、使いやすいものを提案している			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	見守り、介助が優先となり一緒に食べていない。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	利用者はキッチンの反対側にあるテレビを見ていること多く、調理の様子をみてもらうこと少ない。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	医療職とも連携し、カロリーや、水分摂取量が適正量になるよう配慮している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	本人にとって摂取しやすいもの、好んで摂取するものを提供する等工夫している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	バランスは意識しているが、定期的な話し合いは行っていない。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	賞味期限のない青果等は、購入日を記入し、古いものから使用するようになっている。				

愛媛県グループホームすみれの和

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	理解できている。				毎食後、利用者は歯磨きなどの口腔ケアをしている。介助が必要な利用者には、職員が毎食後に口腔内の清潔保持と状態の確認をしている。また、自分で歯磨きをしている利用者までは口腔内の状態までを正確に把握できていない場合もあるため、定期的に職員が全ての利用者の口腔内の状態を確認し、現状を把握できることを期待したい。また、不具合が生じた場合には、歯科往診につなげている。さらに、利用者の状態に応じて、スポンジブラシなどを使用することもある。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	虫歯の有無等、正確に把握できていない部分もある。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	歯科衛生士からの指導は受けていないが、歯科医と相談しながら取り入れたい				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯の管理、定期的な消毒行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	食後の口腔ケア支援している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	不具合あれば、歯科往診依頼している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	自立支援を意識してケアにあっている。				事業所ではなるべくトイレで排泄できるよう、利用者一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。職員が細目にトイレ誘導や声かけをすることにより、使用するパッドの量が減少した利用者もいる。また、寝たきりの利用者は常時おむつを使用しているものの、状態に応じて夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	医療職とも連携し、排便コントロール行っている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表等活用している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	自立支援を意識してケアにあっている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	困難な点があれば、医療職とも連携し、対応検討している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表等活用している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	本人の状態に合わせて、職員が選択すること多い。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	状態に合わせて使用する下着や、パッド等選択している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分摂取や、運動動めている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	現在は、必要なくなったが、プランに取り入れ夕方支援にした方もいる。	◎		○	利用者は、週2回を基本として入浴することができる。利用者のその日の気分や状態に合わせて、職員は柔軟に対応している。各ユニットにはリフトが設置され、利用者の身体状態に合わせて使い分け、安心安全に湯船に浸かり、温まることができている。また、毎日入浴の希望までは対応できていないものの、毎日夕方に足浴を行い、リラックスしてもらおう支援している。さらに、寝たきりの利用者の七夕の願いに「お風呂に入りたい」という希望にも沿い、医師に確認を得た上で、3人体制で湯船に浸かってもらい、感謝されたこともある。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	そのように心がけている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	そのように心がけている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	気持ちよく入浴できるよう、工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	状態観察している。				

愛媛県グループホームすみれの和

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	把握できている。				事業所では、利用者が夜間眠れない状態を改善できるように生活リズムを整えたり、日中の活動量を増やしたりするなど、工夫しながら夜間安眠できるよう支援している。また、利用者の体調面を考え、必要に応じて医師と相談しながら服薬している利用者もいるが、日中にふらつきなど影響のある場合もあるため、安易に服薬に頼りすぎない支援をしている。さらに、生活リズムなどを整えることにより、減薬につながった利用者もいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	生活リズムが整うよう支援している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	生活リズムが整うよう支援し、医療職とも連携をとっている。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	個別のニーズに対応できるよう支援している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	特に機会がない。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	特に機会がない。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	本人訴え時は対応している。 家族や知人からはリモート面会で対応。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	リモート面会でのやり取りがほとんど。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	リモート面会でのやり取りがほとんど。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	所持についてはトラブル回避のため、基本的にはお断りしている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	コロナ禍のため、困難。 状況変われば改善予定。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	コロナ禍のため、困難。 状況変われば改善予定。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	所持についてはトラブル回避のため、基本的にはお断りしている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	所持についてはトラブル回避のため、基本的にはお断りしている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預り金があり、家族は出納帳確認している。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族の状況に合わせたサービスが選択できるよう情報提供している。	◎		○	現在のコロナ禍において、面会や外出制限が設けられているため、利用者や家族の希望に添えないこともある。利用者の様子やコロナ禍の状況を見極めながら、職員は利用者や家族の希望やニーズに合わせて、柔軟に対応することを心がけて支援している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。	◎	◎	○	事業所は住宅地の中に位置し、周辺に馴染む優しい色合いの外壁に事業所名が表示され、近隣住民からも認識しやすくなっている。また、玄関先はすっきりと整理され、清潔感がある。さらに、玄関を入るとすぐに事務室があり、来訪者は声をかけやすい構造となっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。)	○	一般家庭と変わりない雰囲気。	◎	◎	○	共用空間にあるカウンターキッチンから、リビング全体を見渡せるようになっている。リビングからウッドデッキに気軽に出入れ、窓からも家庭菜園や外の様子を眺めることができる。リビング内には雑多な飾り付けなどはなく、すっきりとシンプルな印象である。四季に応じて、枇杷や桜の木を飾るなど、利用者に季節が感じられるようにしている。また、建物は新しく、廊下やトイレなどの共用空間には清潔感があり、利用者は気持ちよく生活を送ることができる。さらに、共用空間は穏やかな照明光で、安らぎを感じられる雰囲気となっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	清潔な環境維持に努めている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	そのように配慮している。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う仲間同士となるよう、リビングでの席の配慮をしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	△	共有空間から直接見えるところにトイレがある。戸締りし配慮している				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	△	使い慣れたものの持ち込みはあまりない。	◎		○	居室はベッドやエアコン、クローゼットが備え付けてある。また、使い慣れたいすやダンス、仏壇などを居室に持ち込むことができるが、事業所からは危険性のない範囲での持ち込みをお願いしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	自立支援を意識してケアにあっている。			○	建物内部は全体的に十分な広さが確保されており、安全に配慮しながら車いすを自走することができる。階段も、一段一段の踏み幅が広く、急傾斜でないため手すりを活用して昇降訓練をすることができる。また、立位訓練を日課としている利用者の居室前には、毎日の成果が目視できる表を貼り、利用者が居室の出入りの際に目にすることで、毎日の継続を意識して取り組めるよう工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	そのように配慮している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	それぞれの利用者の嗜好や、生活歴にあったものを各々が活用できるよう配慮している。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	身体拘束の研修実施している。	◎	◎	○	1階にある玄関は、日中は施錠していない。各ユニットの出入り口も通常は施錠していないものの、その時々職員数や利用者の状態により、利用者の安全面を考え、施錠することがある。また、事業所では身体拘束の研修を実施し、職員は鍵をかけることの弊害を理解している。日常的に職員は利用者へ声かけなどをして対応しているが、今後ユニットの出入り口の施錠が常態化しないよう、職員間で話し合い、心がけた対応ができることを期待したい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	特に理解されない場面ない。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	利用者の状態把握に努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	把握できている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	異常があれば記録し、情報共有に努めている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	異常あれば報告し、連携とっている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居相談時にかかりつけの継続の提案はしているが、訪問診療を選択される場合が多い	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	状態に応じた医療機関を複数提案している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	説明し協力を得ている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	混乱することがないよう情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	適宜情報交換を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	主事医医療機関と連携を図っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	協力医療機関と連携とっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	異常、急変等あれば、24時間いつでも協力医療機関へ相談している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	協力医療機関と連携とっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋にて確認している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	ミスを防げるよう対策している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	常に状態観察し、異常があればそれが副作用によるものなのか考慮している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	医療職と連携し、状態に応じて薬のことも相談している。				

愛媛県グループホームすみれの和

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に家族に意向確認している。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合における看取りの指針」があり、入居契約時に利用者や家族に説明している。また、状態に応じて、随時利用者や家族の意向を聞くほか、主治医や看護師と連携を取り、関係者全員で方針を共有しながら看取り介護を行っている。事業所は開設して2年目であるが、既に1件の看取り介護を経験している。また、職員には終末期ケアの研修を実施するほか、実際の看取りの後には、職員間で振り返りを行っている。今後も、ホーム長等は、「利用者や家族にとって最期の場所として、ここを選んで良かった」と思ってもらえるような支援を目指している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	終末期のケアについて内部研修を行っている。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	現状把握し、どこまでの支援が可能か見極めを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時に家族に説明し、状態の大きな変化があれば、都度できる対応を説明している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	終末期のケアについて内部研修を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	重度化した時には家族と今後について話し合い、展開についても説明している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	内部研修を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	内部研修を行っている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	コロナ禍ということもあり、感染症の流行には気をつけている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	コロナ禍ということもあり、感染症の流行には気をつけている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	コロナ禍ということもあり、徹底している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	コロナ禍の為、面会制限等あり、難しいところある。				事業所の開設とコロナ禍のタイミングが重なってしまい、面会制限で家族は来訪できない状態が継続しているが、SNSのLINEを活用したりリモート面会に対応したり、家族に利用者の日常の動画を送信したりするなど、家族とのつながりを大切にしている。利用者毎の担当職員が、毎月定期的に利用者の様子をお知らせする手紙を、請求書に添えて同封している。また、ホーム長はSNSのブログなどを活用して、事業所の様子などを発信していくことを検討している。さらに、家族が事業所の開設当初から来訪できないため、感染対策を取ったうえで時間制限を設けて窓越し等での面会に対応したり、LINEなどのSNSを使いこなせない家族に対して、写真などを添えて利用者の状況を分かりやすく報告したりするなど、職員間で話し合うことを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。	x		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	定期的到手紙で報告し、行事の内容等動画も送っている。		○	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	状態の変化あれば報告し、どのようなことに不安を感じるか把握できるようにしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	生活歴確認している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	定期的到手紙にて報告している。	x		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	起こりうるリスクは説明し、その上でどのような生活を望むか確認している。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	定期的に連絡している。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時には、需要事項説明書、契約書、重度化の指針それぞれの説明を行い気がかりな点がないか確認しながら説明している。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	急に退去ということにならない様状況に応じて家族説明や選択肢が複数ある状況で説明できるよう配慮している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	本部と連携し行える体制がある。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
Ⅲ. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	見学会に参加いただくなどで機会をもうけた。		◎		事業所の開設時に実施した見学会には、近隣住民に声をかけ来訪してもらうことができたが、その後はコロナ禍が継続し、地域の行事も中止になり、交流や関わりはほとんどできていない。事業所の近くには、同法人の他の事業所の運営推進会議のメンバーが住んでおり、日常的に職員とも会話を交わすなど、協力的な存在となっている。また、事業所として地域とのつながりはあるものの、継続して事業所に関心を持っていただけるように、現在は職員のみで運営推進会議を実施しているため、運営推進会議のメンバーに会議録を持って行くときに意見を聞くなど、関係が希薄にならないような取組みを期待したい。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。		○	△		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	コロナ禍のため、地域の方との関りは希薄になっている。					
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。					
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	コロナ禍のため、地域資源の活用難しく、今は行っていない。					
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。					
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。	x		△	事業所は昨年からのコロナ禍の中で開設したため、開設以来職員のみで運営推進会議を開催している。家族や会議のメンバーになってもらえそうな地域住民へ運営推進会議の説明を行うとともに、毎回話している事業所や利用者の様子について、内容が分かりやすい会議録の送付や手渡しをしたり、書面でも意見や要望、質問などをお伺いする様式を一緒に同封するなど、職員間で話し合うとともに、法人内の他の事業所を参考にした取組みを期待したい。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。			△		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。		-	△		
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	コロナ禍のため、職員のみでの参加となるため、職員が参加しやすい日程、時間帯選んでいる。		◎			
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関にて閲覧できるよう配置している。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	共通認識を持つまでには至っていない。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	理念について話す機会を設けていない。	x	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職場内研修の参加励行や外部研修の予定表を閲覧できるようにしている。				法人・事業所として、資格手当や希望休暇、外部研修に参加する際の費用助成など、職員が安心して意欲を持って働けるように努めている。法人では、複数の事業所等を経営していることやコロナ禍の感染対策で代表者は来訪を控えているが、ホーム長は法人の会議に出席して代表者や幹部職員と話す機会があり、職員の声を伝えられることができる。また、事業所には開設時に新たに雇用した介護未経験の職員もいるため、ベテラン職員につきながら指導するほか、職場内研修などを活用して育成している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	面談等を行いながら資格取得等の助言を行っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	年2回の査定を行いそれに応じた支給おを行っている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	機会があれば推奨したいと考えている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	休暇など取りやすくできるよう配慮し急な休みにもお互い様のつもりで休みがとれるようしている。		○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	内部研修行っている。				定期的に職場内研修を実施し、職員は虐待や不適切ケアにどのような行為が当たるかを把握している。また、万が一不適切なケアや虐待を発見した場合の対応についても、学んでいる。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ケアの方法の見直しは、必要を感じれば、その都度行っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	内部研修行っている。			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の疲労やストレスの様子も気を配っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	内部研修行っている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	内部研修行っている。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	そのような要望があれば、弊害について説明し、理解を図る予定。				

愛媛県グループホームすみの和

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	理解が不十分な職員もいる。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	そのような要望があれば、情報提供し、相談にのる予定。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	入居見学时に家族構成を確認し支援者が高齢な場合や少ない場合などに今後考えられることとして情報提供をしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアル作成している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書、ヒヤリハット作成している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ヒヤリハットあったときは、リスク確認し、事故防止について検討している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアル作成している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	体制は整えている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情あれば、改善案検討し、その後の経過報告している。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	個別の意見は聞くようにしているが、特別機会を設けたりしていない。			○	日々の関わりや会話の中で、職員は利用者から希望や意見を聞くほか、表情等から汲み取るよう努めている。家族から要望や意見は、電話連絡時や介護計画の送付時に聞き取りをしている。また、ホーム長等は職員の意見や提案を大切にしており、普段から話し合いの機会を持つことができている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	コロナ禍のため運営推進会議への家族参加なく、家族会も開催していない。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	意見箱の設置				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	各ユニットに入り状況確認などを行っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	聴く機会を作るようにしている。			○	

愛媛県グループホームすみれの和

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1回自己評価を行っている。				事業所は、今回の外部評価の訪問調査が初めてで、自己評価はユニットリーダーを中心に作成している。サービスの評価結果は、今後運営推進会議の中で報告を予定している。今回のサービスの評価結果を踏まえて、事業所として目標達成計画を作成した際には、運営推進会議の参加メンバーや家族に報告したり、コロナ禍の終息後には目標達成のための取り組みの確認のモニターを呼びかけるなど、外部評価を活用して、サービスの向上につなげられることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価の低い点、不安に思っている点把握し、学習の機会としてとらえ、専門誌の定期購入を行っている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	評価内容を運営・ケアに反映していく予定				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議の場面やリモート面会で活用中のlineアプリのタイムラインなどでお知らせする予定	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	初回の為今後取り組んでいく予定				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアル作成し閲覧できるようにしている				現在のコロナ禍において、事業所の避難訓練には消防署からの参加協力はないものの、去年の夏の豪雨の時には、事業所の隣にある川の水位の状況を確認しながら、訓練を兼ねて1階の利用者が実際に2階に避難している。その際には、実際に避難状況の確認ができ、事業所として様々な課題が見え、利用者が安心安全に、かつ迅速に避難できるよう、川の水位がどこに達したら避難の目安するかを決めたほか、食料や資機材の備蓄品の再検討も行っている。また、事業所はオール電化のため、停電時の対応やカセットコンロを使用した備蓄品での調理を実際に経験するなど、職員間で話し合うことを期待したい。さらに、コロナ禍の様子を見ながら、地域住民と災害発生時の対応を話し合ったり、コロナ禍の終息後には地域の防災訓練に参加したりするなど、地域との協力や連携が少しずつ図れることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	ケースに応じて計画的に実施				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に避難訓練等を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。	×	-	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。				事業所として、地域の高齢者や家族から相談があれば、対応できるようにしている。事業所が気軽に相談して良い場所が分からない地域住民も多いことが考えられるため、職員間で話し合いながら相談できることの周知に努めることを期待したい。また、開設して2年目の新しい事業所で、今後は地域包括支援センターや地域の他の事業所とも良好な関係を構築していくことを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。		○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 9 月 3 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3890101862
事業所名	グループホームすみれの和
(ユニット名)	あまなつ
記入者(管理者)	
氏名	渡部 大介
自己評価作成日	令和 3 年 8 月 1 日

<p>【事業所理念】</p> <p>私たちは、利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>(初回調査)</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>県道から少し入った住宅街にあるオール電化の2階建ての新しい事業所は、開設して2年目を迎える。事業所の広々としたリビングから気軽にウッドデッキに出ることができ、共用部分は全体的にシンプルな雰囲気でも優しい色合いでまとめられている。法人として、松山市内で複数のグループホーム等を展開しており、人事異動で同法人の他の事業所で勤務経験のある職員も多く在籍している。また、日々事業所では、利用者が楽しみや生きがいを持ちながら生活を送ることができるように、野菜づくりなどの好きなことを継続してもらったり、利用者が得意な家事などをあえて職員が頼りにしたりするなど、利用者の役割や出番をつくりながら、意欲を引き出せるよう努めている。さらに、現在のコロナ禍において、外出や面会など様々な制限がある中でも、SNSのLINEアプリを活用したりリモート面会を取り入れたり、家族に利用者の様子の動画を配信したりするなど、少しでも事業所での様子を伝える工夫をしている。加えて、事業所の駐車場に食品の移動販売車等と呼んで、地域住民と一緒に利用して楽しんでもらうなど、コロナ禍でも様々なアイデアを出しながら事業所と利用者が地域で孤立することがないよう取り組んでいる。</p>
--	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	普段のケアの中で、本人の意向をくみ取るようにしている。	◎	/	◎	日々の会話や関わりの中で、職員は利用者から思いや希望を聞くほか、表情等から汲み取るよう心がけている。また、訪問調査日には、少し離れた場所で外の風景を眺めながら職員が利用者に寄り添い、思いを言い表しやすい落ち着いた雰囲気の中で会話をする様子が見られた。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人にとって望ましい生活とは何かという点は意識している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	コロナ禍のため、困難な状況のため家族を中心に話し合い	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	整理して記録まではできていない。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	他の職員の見解も確認するようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	コロナ禍のため、困難な状況のため家族を中心に聞き取り	/	/	◎	自宅から入居する場合には、事前にホーム長等が自宅を訪問し、利用者や家族からこれまでの暮らし方や生活環境などの聞き取りをすることもあつた。また、以前利用していた他の介護サービス事業所から情報を聞くこともあり、把握して職員間で情報を共有している。さらに、実際に生活をしていく上で新たに知り得る情報も多く、情報共有ができるように口頭での伝達や記録に残すほか、アセスメントシートの情報も必要に応じて更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	常に状態観察し、現状把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	常に観察し、普段と違う様子あれば、情報共有に努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	普段と違う様子があれば、なぜ違うのかを検討している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	記録をとり、ケアの方法も統一し、生活リズム把握できている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	定期的にあセスメントを行っている。	/	/	○	入居時等に把握した利用者の生活歴などは、アセスメントシートに詳しく記載されているが、現在事業所では、職員がより利用者一人ひとりの人物像を知ること、課題分析やサービスにも活用できるよう、さらに生活歴や性格、こだわりなどの情報をまとめる作業に取り組んでいる。また、利用者の視点で、何が必要なかを職員間で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	定期的にあセスメントを行っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	課題を明らかにするため、トライ&エラーを繰り返している	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの和

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の意向を最優先に考えている。				介護計画は、計画作成担当者が各利用者の担当職員と話し合うほか、利用者や家族の意見、他の職員の気づきなどを取り入れて作成している。また、担当者会議の中で、家族の意見を聞くほか、定期的に職員は介護計画の内容の説明や確認を行っている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族や、専門職や担当の意見を加味して検討している。	○		△	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	対応可能な範囲内では努力している。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアプランの内容は共有している。				職員は、介護計画のサービス内容の実施の有無を毎日記号で記録し、実施状況を確認することができるようになっている。各利用者の経過記録のファイルの表に、サービス内容を貼ることができているものの、どの課題に応じたサービス内容なのかを職員が認識できるように課題や目標も合わせて記載や貼り付けをするなど、職員間で検討することを期待したい。また、経過記録には利用者の発したありのままの言葉が残され、どの職員が見ても分かりやすい状況となっている。さらに、職員の気づきやアイデアは口頭での申し送りに留まっているため、新入職員等があとで確認しても分かるように、記録に残すような工夫を期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	定期的にモニタリングしている。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録にて行っている。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	口頭での申し送りは行っているが、記録はしていない。			△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じた計画の見直し・更新を行っている。				事業所では、利用者毎の担当職員を中心に毎月モニタリングを実施しているほか、介護計画の短期目標等の期間に応じて、利用者の現状の確認をしている。また、利用者の状態に変化が見られた場合は、随時関係者で話し合い、現状に合った介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月モニタリング行っている。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化があれば、その都度計画を作り直している。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的に会議を開いている。				日々の申し送りのほか、定期的に毎月各ユニットでミーティングを実施し、利用者の課題や状態などの話し合いをしている。緊急を要する場合には、随時職員間で検討をしている。また、会議等に参加できなかった職員には、ホーム長等が後日口頭で説明するほか、会議記録などに目を通してもらい、意見を聞いている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	並行して業務も行いながらの会議なので難しいところもある。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	可能な限り開催日時工夫しているが、休日の職員の参加率は低い。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	○	議事録や、場合によっては口頭でも伝達している。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	○	口頭での伝達に加え、申し送りノート活用している。				日々の申し送りのほか、申し送りノートを活用して、職員全員が情報を共有できるようにしている。また、事業所では申し送りノートや会議録の確認後に、職員はサインを残し、確認漏れがないよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	口頭での伝達に加え、申し送りノート活用している。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(2) 日々の支援											
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	職員主体で体操やレクリエーションを実施している	/	/	/	日常の様々な場面で、職員は利用者を選んでもらうということを意識して、自己決定する機会を作っている。また、利用者が楽しみをもって過ごせるように、趣味や得意なことを継続してもらえるよう支援している。さらに、利用者が詠んだ俳句を、職員が家族にSNSのLINEを活用して送付するなど、好きなことに意欲を持ち続けられるよう取り組んでいる。		
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自身で決定できることは手を出さずきないようにしている。	/	/	/		◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人の思いを大切にしている。	/	/	/		/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	タイムスケジュール等、職員都合になっている部分もある。	/	/	/		/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	そのように常に心掛けている。	/	/	/		/	◎
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	観察に努めている。	/	/	/		/	/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	個人を尊重している。	/	/	/	○ ◎ ◎	事業所では、最初に利用者が自分より年上であることを職員に再認識してもらい、ミーティング時などを活用して利用者の人権や尊厳に触れるようにしている。また、職員の言葉づかいや言動が気になる場面には、ホーム長やユニットリーダーから該当職員に注意するようにしている。時には、利用者が居室に不在の場合に、職員がそのまま入室してしまうことが見られるため、居室を利用者のプライバシーのある空間と認識して、リビングなどにいる場合にも必ず利用者に声をかけて確認の上で入室するなど、職員間で話し合い統一した対応ができることを期待したい。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	利用者の尊厳を守ることを意識している。	/	/	/	/		◎
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	利用者の尊厳を守ることを意識している。	/	/	/	/		/
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	プライバシーに配慮している。	/	/	/	/		△
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	内部研修を行っている。	/	/	/	/		/
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者の得意を活かせるようにしている。	/	/	/	/	職員は利用者一人ひとりの性格や状況を把握し、利用者同士が支え合い、関わりを持ちながら生活が送れるよう努めている。また、各ユニットには男性の利用者は少なく、職員は孤立感を抱かせないように、細目に声かけをしている。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	円滑な集団生活の為、配慮している。	/	/	/	/		/
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	円滑な集団生活の為、配慮している。	/	/	/	/		/
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	円滑な集団生活の為、配慮している。	/	/	/	/		/

愛媛県グループホームすみの和

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	詳細は家族も知らないこともあり、不十分な点ある。					
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	詳細は家族も知らないこともあり、不十分な点ある。					
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。					
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。					
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。	×	△	△	現在のコロナ禍において、事業所では外出制限が設けられているものの、少人数でドライブに出かけたり、事業所周辺を散歩したり、ウッドデッキでバーベキューをするなど、なるべく利用者に外の空気に触れて気分転換ができるよう工夫している。今後もホーム長等は、感染対策を取りながら貸し切りの場所などに出かけられるよう思案している。また、重度の利用者の状態にも配慮しながら、リビングからウッドデッキに出て外気浴をすることができている。さらに、外出制限が設けられているものの、事業所として外出等に工夫している現状を家族に伝え、安心や信頼関係につなげていくことを期待したい。	
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。					
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	リクライニングなどを使い可能な範囲で実施					○
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。					
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症に関する内部研修実施している。				事業所では利用者の自立支援を念頭に置き、日常生活動作の中で、利用者一人ひとりのできることやできそうなことを見極め、職員が手や口を出し過ぎないような支援を心がけている。	
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活動作によるリハビリ意識している。					
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	残存機能の維持・向上に努めている。	◎		◎		
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者の得意を活かせるようにしている。				野菜づくりが好きな利用者には、率先して家庭菜園での栽培の世話をしてもらっている。調理の際の切る作業などの下ごしらえや食器拭きなど、職員は利用者の得意なことに着目し、役割や出番を持ってもらいながら張り合いのある生活が送れるよう支援している。また、訪問調査日には、エプロンを着けて意欲的に調理の下ごしらえなどをする利用者の姿を見ることができた。	
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者の得意を活かせるようにしている。	○	◎	◎		
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。					

愛媛県グループホームすみの和

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	利用者の好みの把握に努めている。				食事の時には、食べこぼしのある利用者もなるべく食事前エプロンを使用せず、職員がタオルでさりげなく汚れを拭きとるなどの対応をしている。また、化粧の習慣がある利用者もあり、おしゃれ心を尊重して継続してもらえよう支援している。さらに、寝たきりの利用者にも好みの服装に配慮し、職員は更衣の際などに利用者自身の負担がかからず、着こごちの良い衣類を選択するよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	利用者の好みの把握に努めている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人の意向を最優先に考えている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	TPOに合わせた服装となるよう考えている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりけなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	利用者の尊厳を守ることを意識している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	コロナ禍のため、困難。出入り業者は固定し、訪問にて理容・美容の支援を行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人にとって馴染みのものを大切にしている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事が楽しみになるよう、楽しめるよう配慮している。				利用者のリクエストを取り入れながら、職員が献立を作成している。食材はネットスーパー等を活用し、職員が発注している。調理の下ごしらえの準備などできることは積極的に利用者にも手伝ってもらい、ホットプレート活用したメニューの時は利用者がメインの食材で腕をふるう場面もある。おせちや芋炊きなど、季節を感じたり懐かしい献立を取り入れ、利用者に食事が楽しみになるような工夫をしている。食器類は利用者の使い慣れた物や状態にあった物を使用している。利用者の食事形態に応じて、ミキサー食やざきみ食などの対応をしている。また、職員は利用者の食事中に介助や見守りに専念し、同じテーブルを囲んで食事を摂ることはないが、同じメニューを食べている職員もいる。疾患のため居室で食事介助をしている利用者もあり、職員は献立の説明をするなど、食事に興味を持ってもらうような支援をしている。さらに、献立のバランスや味付け、固さなど、利用者の声を随時聞いて職員間で話し合い、献立作成や調理の参考にしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	献立作りは職員が行い、買い物についてはネットスーパー活用している。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	出来ること、得意なことは利用者にも積極的にやってもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	好きなもの、嫌いなもの、アレルギーの有無について情報共有している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	好き嫌い、季節感に配慮している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	○	本人の嚥下機能や主治医の意見を取り入れながら機能に応じた食事形態で提供				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△	家族に準備して頂いているが、機能にあてない場合は、使いやすいものを提案している			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	見守り、介助が優先となり一緒に食べていない。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	利用者はキッチンの反対側にあるテレビを見ていること多く、調理の様子をみてもらうこと少ない。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	医療職とも連携し、カロリーや、水分摂取量が適正量になるよう配慮している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	本人にとって摂取しやすいもの、好んで摂取するものを提供する等工夫している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	バランスは意識しているが、定期的な話し合いは行っていない。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	賞味期限のない青果等は、購入日を記入し、古いものから使用するようにしている。				

愛媛県グループホームすみれの和

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	理解できている。				毎食後、利用者は歯磨きなどの口腔ケアをしている。介助が必要な利用者には、職員が毎食後に口腔内の清潔保持と状態の確認をしている。また、自分で歯磨きをしている利用者までは口腔内の状態までを正確に把握できていない場合もあるため、定期的に職員が全ての利用者の口腔内の状態を確認し、現状を把握できることを期待したい。また、不具合が生じた場合には、歯科往診につなげている。さらに、利用者の状態に応じて、スポンジブラシなどを使用することもある。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	虫歯の有無等、正確に把握できていない部分もある。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	歯科衛生士からの指導は受けていないが、歯科医と相談しながら取り入れたい				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯の管理、定期的な消毒行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	食後の口腔ケア支援している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	不具合あれば、歯科往診依頼している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	自立支援を意識してケアにあっている。				事業所ではなるべくトイレで排泄できるよう、利用者一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。職員が細目にトイレ誘導や声かけをすることにより、使用するパッドの量が減少した利用者もいる。また、寝たきりの利用者は常時おむつを使用しているものの、状態に応じて夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	医療職とも連携し、排便コントロール行っている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表等活用している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	自立支援を意識してケアにあっている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	困難なことあれば、医療職とも連携し、対応検討している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表等活用している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どのような時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	本人の状態に合わせて、職員が選択すること多い。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	状態に合わせて使用する下着や、パッド等選択している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分摂取や、運動動めている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	現在は、必要なくなったが、プランに取り入れ夕方支援にした方もいる。	◎		○	利用者は、週2回を基本として入浴することができる。利用者のその日の気分や状態に合わせて、職員は柔軟に対応している。各ユニットにはリフトが設置され、利用者の身体状態に合わせて使い分け、安心安全に湯船に浸かり、温まることができている。また、毎日入浴の希望までは対応できていないものの、毎日夕方に足浴を行い、リラクセスしてもらうよう支援している。さらに、寝たきりの利用者の七夕の願いに「お風呂に入りたい」という希望にも沿い、医師に確認を得た上で、3人体制で湯船に浸かってもらい、感謝されたこともある。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	そのように心がけている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	そのように心がけている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	気持ちよく入浴できるよう、工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	状態観察している。				

愛媛県グループホームすみれの和

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	把握できている。				事業所では、利用者が夜間眠れない状態を改善できるように生活リズムを整えたり、日中の活動量を増やしたりするなど、工夫しながら夜間安眠できるよう支援している。また、利用者の体調面を考え、必要に応じて医師と相談しながら服薬している利用者もいるが、日中にふらつきなど影響のある場合もあるため、安易に服薬に頼りすぎない支援をしている。さらに、生活リズムなどを整えることにより、減薬につながった利用者もいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	生活リズムが整うよう支援している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	生活リズムが整うよう支援し、医療職とも連携をとっている。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	個別のニーズに対応できるよう支援している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	かかってくる電話に取り次ぐが、利用者主体でかけていない。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	かかってくる電話に取り次ぐが、利用者主体でかけていない。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	本人訴え時は対応している。 家族や知人からはリモート面会で対応。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	リモート面会でのやり取りがほとんど。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	リモート面会でのやり取りがほとんど。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	所持についてはトラブル回避のため、基本的にはお断りしている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	コロナ禍のため、困難。 状況変われば改善予定。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	コロナ禍のため、困難。 状況変われば改善予定。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	所持についてはトラブル回避のため、基本的にはお断りしている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	所持についてはトラブル回避のため、基本的にはお断りしている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預り金があり、家族は出納帳確認している。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族の状況に合わせたサービスが選択できるよう情報提供している。	◎		○	現在のコロナ禍において、面会や外出制限が設けられているため、利用者や家族の希望に添えないこともある。利用者の様子やコロナ禍の状況を見極めながら、職員は利用者や家族の希望やニーズに合わせて、柔軟に対応することを心がけて支援している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	清掃している	◎	◎	○	事業所は住宅地の中に位置し、周辺に馴染む優しい色合いの外壁に事業所名が表示され、近隣住民からも認識しやすくなっている。また、玄関先はすっきりと整理され、清潔感がある。さらに、玄関を入るとすぐに事務室があり、来訪者は声をかけやすい構造となっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。)	○	一般家庭と変わりない雰囲気。	◎	◎	○	共用空間にあるカウンターキッチンから、リビング全体を見渡せるようになっている。リビングからウッドデッキに気軽に出入れ、窓からも家庭菜園や外の様子を眺めることができる。リビング内には雑多な飾り付けなどはなく、すっきりとシンプルな印象である。四季に応じて、枇杷や桜の木を飾るなど、利用者に季節が感じられるようにしている。また、建物は新しく、廊下やトイレなどの共用空間には清潔感があり、利用者は気持ちよく生活を送ることができる。さらに、共用空間は穏やかな照明光で、安らぎを感じられる雰囲気となっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	清潔な環境維持に努めている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	そのように配慮している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う仲間同士となるよう、リビングでの席の配慮をしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	△	共有空間から直接見えるところにトイレがある。戸締りし配慮している	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	△	使い慣れたものの持ち込みはあまりない。	◎	/	○	居室はベッドやエアコン、クローゼットが備え付けてある。また、使い慣れたいすやダンス、仏壇などを居室に持ち込むことができるが、事業所からは危険性のない範囲での持ち込みをお願いしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	自立支援を意識してケアにあっている。	/	/	○	建物内部は全体的に十分な広さが確保されており、安全に配慮しながら車いすを自走することができる。階段も、一段一段の踏み幅が広く、急傾斜でないため手すりを活用して昇降訓練をすることができる。また、立位訓練を日課としている利用者の居室前には、毎日の成果が目視できる表を貼り、利用者が居室の出入りの際に目にするすることで、毎日の継続を意識して取り組めるよう工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	そのように配慮している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	それぞれの利用者の嗜好や、生活歴にあったものを各々が活用できるよう配慮している。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	身体拘束の研修実施している。	◎	◎	○	1階にある玄関は、日中は施錠していない。各ユニットの出入り口も通常は施錠していないものの、その時々職員数や利用者の状態により、利用者の安全面を考え、施錠することがある。また、事業所では身体拘束の研修を実施し、職員は鍵をかけることの弊害を理解している。日常的に職員は利用者へ声をかけなどをして対応しているが、今後ユニットの出入り口の施錠が常態化しないよう、職員間で話し合い、心がけた対応ができることを期待したい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	特に理解されない場面ない。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	利用者の状態把握に努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	把握できている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	異常があれば記録し、情報共有に努めている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	異常あれば報告し、連携とっている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居相談時にかかりつけの継続の提案はしているが、訪問診療を選択される場合が多い		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	状態に応じた医療機関を複数提案している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	説明し協力を得ている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	混乱することがないよう情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	適宜情報交換を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	主事医医療機関と連携を図っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	協力医療機関と連携とっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	異常、急変等あれば、24時間いつでも協力医療機関へ相談している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	協力医療機関と連携とっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋にて確認している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	ミスを防げるよう対策している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	常に状態観察し、異常があればそれが副作用によるものなのか考慮している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	医療職と連携し、状態に応じて薬のことも相談している。				

愛媛県グループホームすみれの和

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に家族に意向確認している。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合における看取りの指針」があり、入居契約時に利用者や家族に説明している。また、状態に応じて、随時利用者や家族の意向を聞くほか、主治医や看護師と連携を取り、関係者全員で方針を共有しながら看取り介護を行っている。事業所は開設して2年目であるが、既に1件の看取り介護を経験している。また、職員には終末期ケアの研修を実施するほか、実際の看取りの後には、職員間で振り返りを行っている。今後も、ホーム長等は、「利用者や家族にとって最期の場所として、ここを選んで良かった」と思ってもらえるような支援を目指している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	終末期のケアについて内部研修を行っている。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	現状把握し、どこまでの支援が可能か見極めを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時に家族に説明し、状態の大きな変化があれば、都度できる対応を説明している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	終末期のケアについて内部研修を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	重度化した時には家族と今後について話し合い、展開についても説明している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	内部研修を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	内部研修を行っている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	コロナ禍ということもあり、感染症の流行には気をつけている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	コロナ禍ということもあり、感染症の流行には気をつけている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	コロナ禍ということもあり、徹底している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	コロナ禍の為、面会制限等あり、難しいところある。				事業所の開設とコロナ禍のタイミングが重なってしまい、面会制限で家族は来訪できない状態が継続しているが、SNSのLINEを活用したりリモート面会に対応したり、家族に利用者の日常の動画を送信したりするなど、家族とのつながりを大切にしている。利用者毎の担当職員が、毎月定期的に利用者の様子をお知らせする手紙を、請求書に添えて同封している。また、ホーム長はSNSのブログなどを活用して、事業所の様子などを発信していくことを検討している。さらに、家族が事業所の開設当初から来訪できないため、感染対策を取ったうえで時間制限を設けて窓越し等での面会に対応したり、LINEなどのSNSを使いこなせない家族に対して、写真などを添えて利用者の状況を分かりやすく報告したりするなど、職員間で話し合うことを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。	x		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	定期的に手紙で報告し、行事の内容等動画も送っている。		○	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	状態の変化があれば報告し、どのようなことに不安を感じるか把握できるようにしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	生活歴確認している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	定期的到手紙にて報告している。	x		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	起こりうるリスクは説明し、その上でどのような生活を望むか確認している。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	定期的に連絡している。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時には、需要事項説明書、契約書、重度化の指針それぞれの説明を行い気がかりな点がないか確認しながら説明している。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	急に退去ということにならない様状況に応じて家族説明や選択肢が複数ある状況で説明できるよう配慮している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	本部と連携し行える体制がある。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	見学会に参加いただくなどで機会をもうけた。	/	◎	/	事業所の開設時に実施した見学会には、近隣住民に声をかけ来訪してもらうことができたが、その後はコロナ禍が継続し、地域の行事も中止になり、交流や関わりはほとんどできていない。事業所の近くには、同法人の他の事業所の運営推進会議のメンバーが住んでおり、日常的に職員とも会話を交わすなど、協力的な存在となっている。また、事業所として地域とのつながりはあるものの、継続して事業所に関心を持っていただけるように、現在は職員のみで運営推進会議を実施しているため、運営推進会議のメンバーに会議録を持って行くときに意見を聞くなど、関係が希薄にならないような取組みを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。	/	○	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	コロナ禍のため、地域の方との関りは希薄になっている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	コロナ禍のため、地域資源の活用難しく、今は行っていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。	x	/	△	事業所は昨年からのコロナ禍の中で開設したため、開設以来職員のみで運営推進会議を開催している。家族や会議のメンバーになってもらえそうな地域住民へ運営推進会議の説明を行うとともに、毎回話している事業所や利用者の様子について、内容が分かりやすい会議録の送付や手渡しをしたり、書面でも意見や要望、質問などをお伺いする様式を一緒に同封するなど、職員間で話し合うとともに、法人内の他の事業所を参考にした取組みを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。	/	/	△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。	/	-	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	コロナ禍のため、職員のみでの参加となるため、職員が参加しやすい日程、時間帯選んでいる。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関にて閲覧できるよう配置している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	共通認識を持つまでには至っていない。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	理念について話す機会を設けていない。	x	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職場内研修の参加励行や外部研修の予定表を閲覧できるようにしている。	/	/	/	法人・事業所として、資格手当や希望休暇、外部研修に参加する際の費用助成など、職員が安心して意欲を持って働けるように努めている。法人では、複数の事業所等を経営していることやコロナ禍の感染対策で代表者は来訪を控えているが、ホーム長は法人の会議に出席して代表者や幹部職員と話す機会があり、職員の声を伝えられることができる。また、事業所には開設時に新たに雇用した介護未経験の職員もいるため、ベテラン職員につきながら指導するほか、職場内研修などを活用して育成している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	面談等を行いながら資格取得等の助言を行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	年2回の査定を行いそれに応じた支給おを行っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	機会があれば推奨したいと考えている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	休暇など取りやすくできるよう配慮し急な休みにもお互い様のつもりで休みがとれるようしている。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	内部研修行っている。	/	/	/	定期的に職場内研修を実施し、職員は虐待や不適切ケアにどのような行為が当たるかを把握している。また、万が一不適切なケアや虐待を発見した場合の対応についても、学んでいる。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ケアの方法の見直しは、必要を感じれば、その都度行っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	内部研修行っている。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の疲労やストレスの様子も気を配っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	内部研修行っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	内部研修行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	そのような要望があれば、弊害について説明し、理解を図る予定。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみの和

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	理解が不十分な職員もいる。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	そのような要望があれば、情報提供し、相談にのる予定。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	入居見学时に家族構成を確認し支援者が高齢な場合や少ない場合などに今後考えられることとして情報提供をしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアル作成している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練行っていない。今後訓練で実施したい				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書、ヒヤリハット作成している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ヒヤリハットあったときは、リスク確認し、事故防止について検討している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアル作成している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	体制は整えている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情あれば、改善案検討し、その後の経過報告している。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	個別の意見は聞くようにしているが、特別機会を設けたりしていない。			○	日々の関わりや会話の中で、職員は利用者から希望や意見を聞くほか、表情等から汲み取るよう努めている。家族から要望や意見は、電話連絡時や介護計画の送付時に聞き取りをしている。また、ホーム長等は職員の意見や提案を大切にしており、普段から話し合いの機会を持つことができている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	コロナ禍のため運営推進会議への家族参加なく、家族会も開催していない。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	意見箱の設置				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	各ユニットに入り状況確認などを行っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	聴く機会を作るようにしている。			○	

愛媛県グループホームすみれの和

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1回自己評価を行っている。				事業所は、今回の外部評価の訪問調査が初めてで、自己評価はユニットリーダーを中心に作成している。サービスの評価結果は、今後運営推進会議の中で報告を予定している。今回のサービスの評価結果を踏まえて、事業所として目標達成計画を作成した際には、運営推進会議の参加メンバーや家族に報告したり、コロナ禍の終息後には目標達成のための取り組みの確認のモニターを呼びかけるなど、外部評価を活用して、サービスの向上につなげられることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価の低い点、不安に思っている点把握し、学習の機会としてとらえ、専門誌の定期購入を行っている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	評価内容を運営・ケアに反映していく予定				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議の場面やリモート面会で活用中のlineアプリのタイムラインなどでお知らせする予定	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	初回の為今後取り組んでいく予定				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアル作成し閲覧できるようにしている				現在のコロナ禍において、事業所の避難訓練には消防署からの参加協力はないものの、去年の夏の豪雨の時には、事業所の隣にある川の水位の状況を確認しながら、訓練を兼ねて1階の利用者が実際に2階に避難している。その際には、実際に避難状況の確認ができ、事業所として様々な課題が見え、利用者が安心安全に、かつ迅速に避難できるよう、川の水位がどこに達したら避難の目安するかを決めたほか、食料や資機材の備蓄品の再検討も行っている。また、事業所はオール電化のため、停電時の対応やかセットコンロを使用した備蓄品での調理を実際に経験するなど、職員間で話し合うことを期待したい。さらに、コロナ禍の様子を見ながら、地域住民と災害発生時の対応を話し合ったり、コロナ禍の終息後には地域の防災訓練に参加したりするなど、地域との協力や連携が少しずつ図れることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	ケースに応じて計画的に実施				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に避難訓練等を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。	×	-	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。		○	△	事業所として、地域の高齢者や家族から相談があれば、対応できるようにしている。事業所が気軽に相談して良い場所か分からない地域住民も多いことが考えられるため、職員間で話し合いながら相談できることの周知に努めることを期待したい。また、開設して2年目の新しい事業所で、今後は地域包括支援センターや地域の他の事業所とも良好な関係を構築していくことを期待したい。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	コロナ禍のため、困難。状況変われば改善予定。			△	